

## 令和7年度イタリアンライグラス品種選定試験（短報）

名取美貴・山崎藍子\*・岡庭就祐

## Comparative Study on Variety of Italian Ryegrass (NOTE)

NATORI Miki, YAMAZAKI Aiko\* and OKANIWA Shusuke

## 目 的

イタリアンライグラスは寒地型のイネ科単年生牧草で、栽培や収穫調整が容易なうえ栄養価も高く多刈りが可能であることから、千葉県内では冬作飼料作物として基幹作物となっている。そこで、本県の気候風土に適し、収量性や品質等が安定した新たな奨励品種を選定するための基礎的な知見を得るために、極早生、早生、晩生の各品種において、品種比較試験を実施した。

## 材料および方法

- 1 試験期間 2024年11月1日から2025年6月5日
- 2 試験場所 千葉県畜産総合研究センター試験圃場（千葉県八街市、標高56 m、黒ボク土）

## 3 供試品種

試験には極早生品種の2品種（あかつき、さちあおば）、早生品種の4品種（ニオウダチ※、ライジン2、クアトロ-TK5、いなずまGT）、晩生品種の1品種（ジャイアント※）の合計7品種を供試した。（※印は本県の2025年飼料作物奨励品種）

## 4 播種および施肥量

播種は2024年11月1日に実施し、4倍体品種のジャイアントは300 g/aを、それ以外の2倍体品種は200 g/aを1区2.25 m<sup>2</sup>に散播し、1品種につき3反復実施した。施肥量は、牛糞堆肥200 kg/a、苦土石灰5 kg/a、化成肥料N14:P14:K14 0.5 kg/aを施用し、1番草の刈取り後に化成肥料N14:P14:K14 0.5 kg/aを追肥した。

## 5 調査項目

飼料作物系統適応性検定試験実施要領(2001)に準じて、出穂始期、草丈、倒伏性、被度、病害発生状況の生育調査と、播種区内に設置した1 m<sup>2</sup>の固定コドラート内の収量調査として、乾物率および乾物収量を測定した。なお、収穫は、1番草は出穂期、2番草は出穂揃い～開花期を目安に実施した。

令和7年8月31日受付

\*現東部家畜保健衛生所

## 6 気象観測

試験圃場近くの芝地に設置した百葉箱内の最高最低温度計を用いて日々の最高および最低気温を測定し、その平均値を日平均気温とした。また、雨量計および転倒ます式自動雨量計を用いて日々の降水量を計測した。なお、栽培期間である2024年11月上旬から2025年6月上旬までの平均気温および降水量は旬ごとに平均値を算出し、1991年から2020年までの30年間の平年値と比較した。

## 結 果

## 1 気象概要

栽培期間中の気象状況を図1に示した。栽培期間全体の平均気温は、12月中旬で低かった以外は、平年並みか平年より高かった。

栽培期間中の降水量は、播種直後の11月上旬および11月下旬は平年を著しく上回ったが、12月上旬から2月下旬にかけては平年を下回った。さらに3月上旬から5月上旬までは平年を上回る旬が多かった。

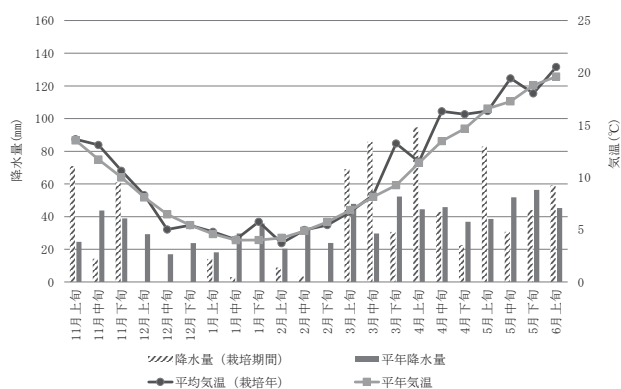


図1 栽培期間中の気象状況

## 2 調査結果

生育調査結果を表1に示した。1番草の出穂始めは、極早生品種のさちあおばが最も早く、概ね出穂期で実施する収穫調査日も最も早かった。さちあおばと同じ極早生品種であるあかつきは、出穂始めがさちあおばより15日遅れ、早生品種と同様に4月下旬の収穫調査となった。早生品種では、クアトロ-TK5が最も早く出穂始めを迎え、

ライジン2が最も遅く、7日の差があった。一方ライジン2の出穂始めは、晩生のジャイアントの出穂始めと比較し、3日の差であり、同じ早生品種であるクアトロ-TK5より差が小さくなった。草丈は、1番草ではライジン2が最も高かったが、2番草では、クアトロ-TK5が最も高かった。倒伏は、ニオウダチでは全くなかったが、他の早生品種における1番草の倒伏は、いずれも4月11日の降雨に起因するものであった。被度は、さちあおばおよびクアトロ-TK5の1番草で低かったが、これは雑草が多かったためであった。病害は、1、2番草いずれも極微な斑点病の発生があるか全く認められなかった。

収量調査結果を表2に示した。乾物率は、全品種の1、2

番草については14.9～22.0%の範囲にあった。極早生品種および早生品種の乾物収量は、1番草ではあかつきが最も高く、2番草ではクアトロ-TK5が最も高くなった。1、2番草合計乾物収量においては、あかつきが最も高く、次いでジャイアントであった。

### 3 県奨励品種との比較

県奨励品種であるニオウダチと比較すると、さちあおば以外の品種では1、2番草の合計乾物収量は優れていたが、いずれも1番草倒伏が多く劣っていた。極早生品種のあかつきは、県奨励品種の晩生品種であるジャイアントと比較しても1、2番草合計乾物収量が優れていた。

表1 生育調査結果

早晩性	品種名	出穂始め (月/日)	収穫調査日 (月/日)		草丈 (cm)		倒伏 (%)		被度 (%)		雑草程度 (%)		病害 (1極微又は無～9甚)	
			1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草
極早生	あかつき	4/13	4/24	5/29	108.4	99.0	63.3	0	98	100	1.7	0	1	1
	さちあおば	3/28	4/8	5/13	84.0	83.0	0	0	67	90	33.3	0	1	1
早生	☆ニオウダチ	4/16	4/24	5/20	109.9	87.8	0	0	93	100	6.7	0	1	1
	ライジン2	4/18	4/28	6/5	116.3	106.9	26.7	0	99	98	1.3	0	1	1
	クアトロTK5	4/11	4/22	5/29	109.3	109.4	43.3	0	75	100	25.0	0	1	1
	いなづまGT	4/14	4/24	5/29	110.1	96.7	43.3	0	93	97	6.7	0	1	1
晩生	☆ジャイアント	4/21	4/28	6/5	115.7	104.7	46.7	33	99	100	0.7	0	1	1

☆印は千葉県奨励品種

表2 収量調査結果

早晩性	品種名	生収量 (kg/a)			乾物率 (%)		乾物収量 (kg/a)		
		1番草	2番草	合計	1番草	2番草	1番草	2番草	合計
極早生	あかつき	605.0	269.5	874.5	16.1	18.7	97.6	50.4	148.0
	さちあおば	301.5	186.5	488.0	15.8	18.7	47.6	34.9	82.5
早生	☆ニオウダチ	510.7	268.3	779.0	16.2	14.9	82.9	39.9	122.8
	ライジン2	434.5	226.7	661.2	19.5	22.0	84.5	49.9	134.5
	クアトロTK5	432.7	275.8	708.5	18.3	19.6	79.3	54.0	133.3
	いなづまGT	573.3	226.0	799.3	15.2	18.5	86.9	41.7	128.6
晩生	☆ジャイアント	554.7	229.5	784.2	17.8	20.1	98.9	46.1	145.0

☆印は千葉県奨励品種

## 参考文献

独立行政法人畜産草地研究所、2001、飼料作物系統適応性検定試験実施要領（改定5版）、農林水産技術会議事務局:45